
僕は魔装者 ～自信を取り戻せ～

時雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕は魔装者 ～自信を取り戻せ～

【Nコード】

N4983BA

【作者名】

時雨

【あらすじ】

僕は魔装者。いろんな魔法を封入して戦うんだ。だけど、ちょっと自信がなくて・・・
ちっちゃな出来事での、大きな自信のお話。

僕は、フィン。あの有名な、妖精の尻尾の魔導師さ。

僕は魔装者。魔法を封入した魔装具で戦闘する。だけど、僕はこの魔法が嫌いだ。この魔法、いろんな種類の魔法が使えるけど、封入しないといけない訳だし、数を持っていける訳じゃない。何も無しに、炎を吹いたり、氷で物を作るナツやグレイがうらやましい。

「おいフィン！ 仕事行こうぜ！」

「ああ、ナツ・・・僕はいいよ。グレイとかエルザ誘ったら？」

「皆いねーんだよ。お前、最近仕事行つてるところ見てねえぞ。生活費大丈夫なのか？ ルーシイみたいになっちまうぞ」

ナツは強引に誘ってくる。僕は、いつものように謙遜して断ったが、無理だった。

「良いから行こうぜ！」

「う・・・分かったよ。行けばいいんだろ、行けば！」

こうして僕とナツだけで仕事にでた。仕事は『森バルカンの掃討』だ。まあ、僕なんかよりナツに期待しよう。

*

今日の僕は、ガントレットを持って仕事にでた。封入されているのはウェンディの天の滅竜魔法。治癒魔法を入れさせてもらっている。僕はこうして、いつもサポート役、裏方にまわる。何事も、目立たない様に目立たない様に。ナツをカッコ良く見せた方が、僕よりもずっといい。いざとなったら、ナツの滅竜魔法を封入させても

らえばいい。

ずっと黙っていた僕に、ナツが話しかけてきた。

「フィン、どうかしたのか？ お前いつつも黙ってるけどよ」

「良いんだよ。僕はこうしているのが好きなんだよ。ナツみたいに強い魔法、自分では使えないから・・・」

「おお？ そんなことねーだろ。だって魔装使えるの、お前だけじゃねえか」

ナツや皆、そう言ってくれる。だけど、封入しないといけないこの魔法、正直不便だ。

「お前にしか使えねえ魔法。かつこいいじゃねえか！」

「またまた・・・」

ガサガサッ！！

「ウホオオオオ！！！」

「出たな！！ 森バルカン！！ 火竜の・・・」

ナツは咄嗟に反応し、魔法を使う。しかし、バルカンは大きく腕を振りナツの体を突き飛ばした。ナツが、遠くに飛ばされる。

「ぐあっ！！」

「ナツ！」

「ウホオオオオオ！」

バルカンは大きく雄叫びをあげる。次の狙いは、どうやら僕の様だ。腕を大きく振り上げる。僕も咄嗟に魔法を使う。

「天竜の咆哮！！」
「ウホ？」

くそ、腕は跳ねかえったものの、僕の魔力じゃダメージを与えられない。バルカンは僕の心情を分かっているかのように、頭をかい
て俺をからかう。

「フィン！」
「ナツ！」

起き上ったナツが、こっちに向かって魔法を放つ。

「火竜の咆哮！！」

狙いは、バルカンじゃない。ガントレットを振りかざす、僕だ。
ガントレットに、ナツの荒ぶる炎が吸い込まれる。ガントレットを
下にかざす。ガントレットが、強い光を放った。

「行け！ フィン！」
「封入完了！！」

バルカンの大きく振り上げた腕。大きな図体が仇となったな。僕
の小柄な体を活かして、ガラ空きの懐に入り込む。僕はキツとバル
カンを見据えた。この距離なら、いける。

「火竜の咆哮！！」
「ウホオオオオ！！」

超絶至近距離からの火竜の咆哮。炎はバルカンの腹部に直撃した。
バルカンの体を大きく突き飛ばした。バルカンは倒れ込む。白目を

むいている。気絶したようだ。僕ははっとする。夢中になって気付かなかったが、今は僕がやったんだ。僕も、こんな奴が倒せるんだ。

ナツが嬉しそうに駆け寄ってきた。

「やったじゃねえか！ フィン！！」

「僕が・・・やったんだ・・・」

「そうだよ！」

茫然とした。僕でも出来たんだ。とても嬉しかった。勝てた・・・僕が！

「僕だって妖精の尻尾の魔導師だ！」

「おう！！」

この勝利で、僕は前より自信を持てた。確かに魔法を封入しないといけないし、正直めんどくさいけどね。いろんな人の魔法の、良いとこどりが出来るんだ。いろんな人の魔法を封入すれば、僕だってきつと・・・夢のS級魔導師になれるかもしれない！

僕だって妖精の尻尾の魔導師なんだ！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4983ba/>

僕は魔装者 ～自信を取り戻せ～

2012年1月13日21時48分発行